
ハンティング

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハンティング

【Zコード】

Z6520Y

【作者名】

山野つづじ

【あらすじ】

週末の一日間、俺はハンティングについて鹿狩りをしたんだけど

…。

(前書き)

アメリカ南部での鹿狩りの様子を交えてストーリーを進めました。
雰囲気を少しでも感じて頂ければ幸いです。

俺は週末の土曜日に、一人でハンティングに行つたんだ。
土日が休みだから、今週は土曜と日曜日に行こうって決めてたの
や。

ハンティングは獲つたら獲つたで、食料としても重宝するし、肉
の半分くらいはホームレスに寄付してるからさ、嫌いつていう人も
いるんだけどちよつとは世の中の為にはなつてるんだぜ。

それに、ハンティングをすることで増えすぎる鹿の数の調整にも
なつてるんだ。

そういうてもさ、動物を殺すのに躊躇いがあるつて人がいるのさ。
こればっかりはさ、好きか嫌いかつて問題もあるから仕方ないん
だよな。

さてと、今日はちよつと小高い丘の上で鹿を待機してみるか。
昨年はここで鹿の群れを見たから、ひょつとすると奴らはまたこ
こに現れるかな。

そうそう、ハンティングつてさ、単に撃つだけみたいなイメージ
あるだろ？

ところがさ、鹿を待つ間の時間つて、それはそれですごくいいも
のがあるんだよ。

時を待つ間の「考えを巡らす時間」つていうのかなあ。

昔の出来事をあーでもないこーでもないって思い出したり、家族
のことを改めて考えてみたりしてさ。

呼吸をすれば自然の空気が体を満たして、耳には人間が昔から聞
いてきた自然の音が聞こえるわけだ。ここじゃ人間も自然の一つつ
て、実感できるんだよなあ。

おつと、鹿が現れたぞ。

最初に来たのはメスが一頭、続いてオスか…

メスはドウつていうんだけどさ、通常みんなオスのバックと呼ば

れる方を撃つのだ。

なぜかつて、バツクの方が体が大きいから肉が多くとれるだろ？

しかも、バツクには立派な角があるわけ。

器用な人の中には、バツクの立派な角を使ってインテリアを作つたりする人もいるんだよ。

しーつ、狙いを肩の後ろ側と心臓の位置辺りに合わせて、静かに息をとめる。

撃つぞ。

ダーン！ というライフルの音が、雑木林に大きく響いた。
くそつ、狙いがちょっと外れちまつた。

バツクは大きくジャンプして、林の中に消えていった。

狙いを外しちまうと、鹿はかなり遠い距離までいつちまうんだ。
こりゃあ、死体を搜すのにはちょっと歩かなきゃなんねえなあ。
俺は、枯葉を踏みしめながら、鹿が逃げていった方向に歩いていつた。

林の中は静かで、音といつたら自然が作る風の音や小川の音。
ただ歩いているだけなのに、自分が野生に返つたように感じるもんだ。

そういうえさ、死体を搜すのにいい目印になる鳥つて知ってるか？
バザードつていうんだけどさ、まあハゲワシつていつた方がわかり易いか。

あいつらはさ、死肉とか腐肉を食らうんだよ。

だから奴らは死体があつたりすると、そこを中心にして円を描いて飛び回るんだ。

魚でも鹿でも、とにかく奴らは「食えるぞ」って思つとぐるぐるそこを中心に飛び回るのだ。

俺のいつてることわかる？

要はさ、今みたいに急所を外して自分の撃つた鹿を見つけることができないとしても、バザードが見つけてくれるってわけ。

まあ、奴らに食われる前に見つけないと、いう時間制限があるんだけだ。

一時間程歩いたところで、俺は運よく撃ったバックを見つけることができた。

見つけたバックは、後ろ足の部分をロープで縛り、車まで引きずつていった。

ピックアップトラックの荷台に乗せて、肉屋まで運んでいった。

翌日、俺はまた昨日と同じ場所にきて、鹿を待っていた。

昨日一頭仕留めたというのもあって、今日は絶対というチャンスがなくともいいと思ってたんだ。

ただ自然の中で、風が気を揺らす音を聞いたり、たまにちょろつと見かけるアライグマを見ていたりして楽しんでたんだ。

ふつと空を見上げると、木漏れ日と一緒にバザードが飛んでいるのが見えたんだよ。

何羽くらい飛んでるんだろう……って見てたら、五羽くらいが円を描いてるわけ。

これは、誰か撃った鹿がそのまんまなのか?って思つたんだ。たとえそれが鹿じゃなくても、いい話のネタにはなるだろ?

たださ、林の中にいるもんだから、円の中心つていうのがよくわからなくて、とりあえずバザードが飛んでるだろ?周辺をうろうろ歩いてみたんだよ。

一時間くらいこうこうと歩き回つたんだけど、何も見つからないんだよね。

ちえつ、期待ハズレだ。

それでも今年は、でかいバックを一頭とつただけでもめつけもんだ。

俺はそう思いながら雑木林を抜けて、国道沿いに止めて置いたトラックに戻つた。

トラックの後部座席にあるライフル掛けにライフルをかけて、ト

ラックに乗る前に大きな伸びをした。

両手を大きく広げ、空に思い切り伸ばし深呼吸した。

その時、わずかに俺の視線にバザードが映った。

空にバザードが、飛んでいやがる。

五羽くらいのバザードが、俺の頭上を…。

俺を中心に、円を描いて飛んでいやがる。

くそつ、ハンティングをしていたのは俺だけじゃなかつたのか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6520y/>

ハンティング

2011年11月20日05時42分発行